

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム 愛

日付 平成19年9月30日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

娘と一緒に鳥取の花回廊に行ったんよ」Aさんが写真を見ながら話してくれる。「今度は乃利武へ行って、温泉に入って食事するそうよ」「歌や芝居や踊りも見れるね」「娘がな、仕事休みじゃから、また、一緒に行けると言うとな」嬉しそうな笑顔を見ていると、私まで幸せな気分になる。春と秋、年2回の家族との遠足はホームの恒例行事だ。「皆さんお出かけ大好き。行けるうちに出来るだけ外へ連れ出したい」と管理者は言う。今はまだ比較的軽度の利用者が多いので、外出支援に力を入れているようだ。併設の特養から車椅子の人も乗れる車を借りてきて、全員で毎月ドライブに出かけ、ソフトクリームやジュースを手にしそうな利用者達をアルバムで見た。特養に勤務していた管理者は、開設当時は戸惑う事も多かったそうだ。「どうしよう」「ちょっと考えてみよう」「こうすれば?」「じゃあ、やってみよう」職員全員で相談しながら取り組んできた。そのうちに、入所時、帰宅願望が強かった人が「どこも行かん。私ここがええ。ここに居させて」と言うようになる。入所して様子を見ているうちに、これはおかしいと、家族も気付かなかった病気を見つけた事もある。入院中見舞いに行くと「家に帰りたい。連れて帰って」と言われる。聞くと、その家とはホームのことだった。職員会議をしていると、Aさんがコーヒーを入れて持って来てくれる。会議だと分かっているので、横のリビングに居る利用者達は聞き耳を立てている。「聞こえんよ」誰かが言って、皆で大笑い。利用者が言いたい事を言って、管理者や職員は泣き笑いしながら、共に受け止めている。今では、今日も無事に過ごせて良かったと思いながら、一日を終える。ホームは普通の家なんだと思い始めているそうだ。利用者との触れ合いの日々を送るうちに、グループホームの良さを体感している。「これ飲みんちゃい」Bさんが客の私を気遣って、自分の湯呑のお茶を勧めてくれる。私はその好意を有難くいただく。夕方仕事を終えた職員が帰ろうとすると「御苦労さん」又、明日」と利用者達が声をかける。何気ないやり取りに、温かい気持ちの交流を感じた。開設してまだ一年、混乱期を経て、今ホームの地盤はしっかりと固まってきた。これからどんどん良くなっていくだろう。今後は楽しみなホームである。

特に改善の余地があると思われる点

開設して一年経過、サービス評価も初めての経験であり、全ての面で改善していかなければならないと不安と意欲が絡み合っているが、ケアの質とサービスの向上は、一つひとつ重要性の高いところから取り組んでいこうとしている。

まず、介護計画について職員でよく勉強して、ケアの質の根幹となる認知症ケアを介護計画の中にしっかりと織り込んでいき、日々のケアの実践をしていくことが、最も波及効果の高い改善につながっていくであろうと思う。サービス評価を通して、評価機関としても協力していきたいと考えている。

2. 評価結果 (詳細)

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：特に要改善しようという項目はないが、管理者と職員が相談して理念を作った経緯からも、認識は高く、実践していこうとする意欲を感じる。</p> <p>2. 全体的に見て…：母体法人が示した考え方を基に、全員で考えた理念はとても具体的で分かり易い。利用者の気持ちに添った支援をして、ホームは第2の家でありたいとの気持ちをそのまま理念にした。その為には、家庭的で温かい雰囲気の中で、家事やレクリエーションをしながら、認知症の緩和と能力維持を図り、利用者が生きがいを持って自分らしく過ごせるよう支援していこう。利用者に付き添い、寄り添い、気が付ける人になるよう努めよう。その思いを方針として掲げている。利用者への真摯な思いに溢れ、とても良い。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：該当項目なく、問題なしと判断している。更にベランダの物干しに屋根を付けたいとか、周囲に芝生を植えたいとか考えているとも聞いた。開設して1年住んでみての気づきを母体法人にも伝えていた。利用者の立場に立った環境整備への配慮を感じた。</p> <p>2. 全体的に見て…：一列に配置された居室に沿って長い廊下がある。その中央からリビングのある共有スペースに続いている。松葉杖をつきながら往復する人がいた。1日3往復することになっているようだ。「食堂に居て忘れ物を部屋に取りに帰るのが、又、ええ運動」と言う人もいた。廊下に置かれた椅子に座って、仲良し同士がお喋りを楽しむ場面も見た。家からは外の景色も楽しめる。長い廊下は、程よく人目に付かず、格好の居場所になっていた。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：内部研修を充実して介護計画に対しての認識を高め、朝、夕の申し送り内容を追加し、確実な情報伝達やカンファレンスをしていきたいと考えている。全員で情報を共有し、介護計画の重要性をよく理解して、レベルアップを図るのはとても有意義だと思う。是非取り組んでいきたい。</p> <p>2. 全体的に見て…：家族の面会は多く、利用者によく関わってくれるのが、このホームの特色でもある。利用者ごとに職員担当制をとり、本人も家族も担当が誰か良く分かっているようだ。双方のコミュニケーションはよくとれていて、担当職員は、直ちに利用者や家族から相談を受けたり、頼まれたりして、責任とやりがいを感じている。何かあって電話すると、すぐに家族が会いに来る。盆・正月に限らず、外出や外泊をさせたいとの家族からの申し出も多い。ホームと家族が共に利用者を支える構図ができている。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ケアサービスの質の向上について、職員会議の課題に追加して、良く協議し、更に法人代表者と職員の意思疎通を高めていきたいと考えている。現場でよく話し合い、それを法人代表者に伝え、又、法人代表者も現場の声をよく聞く事はとても大切だと考える。全ては利用者への思いである。今後とも互いに連携をとりながら取り組んでいきたい。</p> <p>2. 全体的に見て…：母体の特養ホームの存在は、このホームの強みだ。納涼祭等は隣地のデイサービスの敷地で行う。同一敷地内での特養の行事に参加し、スムーズに地域の人との交流ができる。カラオケ、また、手品、大正琴など、月に2～3回様々な慰問を受け入れている。毎月慰問に来る人から、利用者の誕生日に色紙のプレゼントをしたいとの申し出もあったようだ。何かあれば特養と連携が取れる事は、利用者や家族にとっても安心だ。母体法人と共に、地域に根ざした活動が出来ていた。</p>		